

浜嶋です。

「おきて」の2番目に「スカウトは友情にあつい」があります。他の「おきて」である、誠実、礼儀正しい、親切、快活、質素、勇敢、感謝の心をもつは、自分一人でできることで、この「友情にあつい」は、相手がいることなんですね。それだけにこの「おきて」を守ることは難しいといつも思っています。

若いリーダー同士は、ボーイスカウトの活動を議論するために、いつも一緒に飲みに行くなどの関わりが多いので、友情を発揮できる場面が多いと思います。先輩指導者と後輩の指導者の間のスカウトの絆は、永遠に続くように思います。その関係性は実に羨ましいと感じます。隊長とスカウトの関係よりも、スカウトとスカウトの関係の方が絆は強いでしょうね。私のカブ隊隊長のときのスカウトはたくさんいますが、年が離れすぎて絆とは呼べません。やはり、スカウト時代にキャンプで同じ仲間同士で食事を作って食べるという、いわゆる「同じ釜の飯を食べる」経験や「寝起きを共にした」経験をたくさんしているからでしょう。

キャンプで自炊したことは、苦い思い出をたくさん持っているのでしょう。あるいは、班長がおいしい食事を作ってくれたという体験も忘れることができないと思います。ご飯の準備が間に合わなくて、朝食を抜いて涙を流すこと、明日は食べられるように早く起きよう、薪を今日中に準備してすぐに火を熾そうなどと仲間で協力することで深い絆ができるのです。生きるためにする活動は、切実なものです。キャンプ生活は、ボーイスカウトの主な活動であり、そのキャンプに参加しないと分からない経験ですね。どこでも寝られること、何日でも続けられること、安全に生活できること、これらをマスターすることが、サバイバルに耐えられる力を身につけることになるでしょう。また、この技能に長けることが「いつも他の人々をたすけます」を実行できる力になります。

1月28日からボーイ隊に上進するスカウトの「月の輪訓練」が始まります。わくわくしますね。辛くても楽しいキャンプ生活が待っています。先輩スカウトが待っています。頑張る力をつけてほしいです。友情を培ってください。

ボーイ隊の訓練をやり遂げれば、社会に貢献する機会に喜んで身を投じる判断も容易になると思います。少年時代、青年時代に培った何げない楽しい活動が、社会人になって役に立つのです。このことを当事者のスカウトは気づいていないでしょう。各指導者は、スカウトたちにこのことを気づかせて、各自の目標の一つに意識させることは、年間の活動を通じて教育目標として、加えてほしいと思います。スカウトが技能の向上だけを目指すのはもったいないと思います。

さて、「友情にあつい」は、ビーバースカウトのやくそくに「みんなとなかよくします」

があり、カブスカウトの「さだめ」の「カブスカウトはたがいに助けあいます」に該当しますね。これらが発展して、生涯目標の「ちかいとおきて」を守る「友情にあつい」になっていると思います。ビーバースカウトから、ボーイスカウトまで、同じ教えを形を変えて教育していくことが、ボーイスカウト運動の生涯教育になります。指導者同士の議論の1つに取り上げて、互いの連携について議論してほしいと思います。指導者がよく口にす「すべてはスカウトのため」の具体的な内容が、我々の間で共通認識されていません。中身が広すぎて、ただ頑張るぞということだけがスカウトのためという認識ではないでしょうか。ボーイスカウトは教育活動であり、具体的にスカウトに何を身につけてほしいかをたくさん懐に持って、それを活動の中に取り入れることが重要だと思います。

スカウトの教育は保護者が望んでいることです。そのためにボーイスカウトに入れていると思います。保護者も指導者とともに一緒にスカウトの成長を願って、ボーイスカウト活動で大きなことをしましょう。そして、一緒に楽しみながら2団の仲間として友情を深めましょう。せっかく大切な時間をボーイスカウト活動に充てているのですから、もっと考えて、もっと楽しく、もっと大きな獲物を獲得できるようにしたいですね。有益な体験をスカウトにさせてあげるように議論してほしいと思います。

※HPの「保護者の声」や豊中第2団の「なろう。一人前に。」にどんどん投稿して、皆さんの思いを伝えてください。